

夢追人

(有)総桐箆筒和光
代表取締役 加島清治さん



(有)総桐箆筒和光は、この秋画期的な表面特殊加工技術の開発に成功している。手垢、しみ、かび、傷を防ぐだけでなく、従来のトノコ仕上げ(うずくり仕上げ)と見間違えうばかりの出来映え。

社長の加島清治さんにお話を伺ってみました。

従来の製品とどのような違いがあるのですか？

それを説明するには、まず従来の桐製品の工法とその弱点をお話ししなければなりません。

元々、桐材はそれ自体の色ムラを押さえる為にトノコというものを使用してあります。トノコとは、女性のお化粧道具であるファンデーションみたいな下地を隠すものです。



トノコを塗った後は、固形のローをこすりつけて仕上げます。ローの効果で、しばらくは手あかはつきにくくなりますが、数カ月たつとローの効果は薄れ、直接木地にふれることになり手垢がつくようになります。少しの水滴でもシミになります。一旦シミになったところを拭けば、ますます広がって汚くなります。そして、トノコは管理が悪いとカビの原因となるのです。

そんな問題があったのですか？

そうです。こんな事例があります。「桐たんすを、お部屋に運びこみ、終わったところで購入されたお客様が、桐たんすを背にして座り、あくよくかたんと背伸びをしたところ、桐たんすに頭が付き、頭につけていた整髪剤の跡がベトトリ。その結果整髪剤のあたったところがシミになり、修理不可能で即取替しなければならなかった」ケース。他に「夏の暑い日に、桐たんすを、半袖で搬入していたところ、店員の腕の汗が桐たん

桐筆筒の新しい

伝統を作っていききたい!



華胥の夢博 審査員特別賞の『RiLL』

すにベツトリ。そこがシミに。修理不能で交換した」こともあります。また、春に桐たんすを購入されたお客様が、秋まで店の方で預かって欲しいということ、倉庫に保管していたら、夏頃に、タンスの表面にポツポツとカビが発生したという話も聞いています。

そうですね。では、表面特殊加工技術を施すと、そういう問題はなくなるのですか？

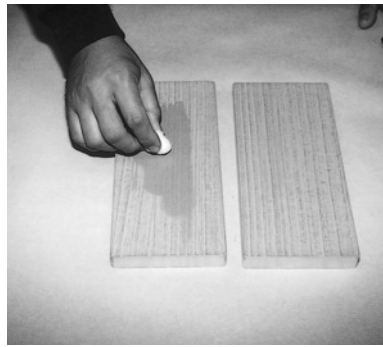
そうですね。たとえば、髪につけていた整髪料や、猫がおしっこをかけてしまったことで、そこがシミになつてしまった場合は、石鹼水を布に含ませて、軽くふき取れば、きれいになります。またはげることありません。また、ぼつぼつとカビの緑の斑点がでてくると、従来の製品では、対策を取れませんでした。当社の製品は、塗装表面にカビが生えることはありません。傷が付いた場合はどうなですか？

表面特殊加工してあるので、へこみキズなんかは水を含ませたティッシュペーパーを一晩当てておけば、シミにもならず元通りになります。

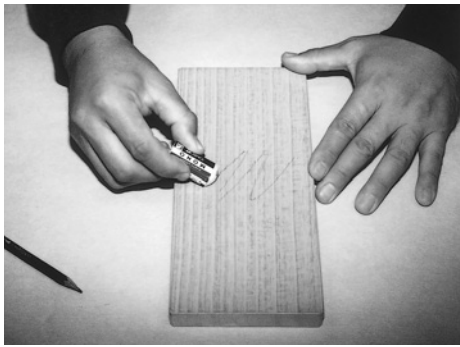
それはすごいですね。どのようにしてそのような技術を開

発できたのですか？

当社では、十数年前から表面特殊加工を施した桐たんすを製造してきました。そうした研究の蓄積が今回の画期的な製品の開発につながったと思います。この新しい表面特殊加工、塗料、塗装方法も、極秘事項で公表できませんが、伝統をうち破る、業界でも超画期的な技術と自負しています。



吸水性があるが、そこがシミになることはない!



鉛筆の落書きを消しゴムで擦ってもOK。

その機能面だけでなく、同業者も従来の「ノコ仕上げ(うづくり仕上げ)」と見間違えはかりの美観にも、是非注目してもらいたいと思います。10月に開かれた華胥の夢博で、審査員特別賞を獲得した新製品RiLLにも表面特殊加工が施されていてそうですね？

はい、RiLLは新しい表面特殊加工を初めて使用した製品です。賞をいただいて嬉しく思っています。これからこの技術によって桐筆筒の新しい伝統を作っていきたいですね。